

「あまみエフエム ディ！ウェイヴ」^{ほうそうげんこう} 放送原稿（10月26日（金）放送分）

テーマ 新着図書紹介

あまみエフエム ディ！ウェイヴをお聞きの皆様、おはようございます。^{かごしまけんりつあま}鹿児島県立奄
^{みとしよかん}美図書館です。

今朝は、^{あまみとしよかん}奄美図書館の新着図書をご案内します。

まずは、一般書の紹介です。

^{むとうしんすけ}武藤真祐さんは、東京大学附属病院を辞めて、東日本大震災の^{ひさいち}被災地・^{いしまき}石巻にクリニックを立ち上げた若きドクターです。その武藤さんが『^い医の^{ちから}力』という本を出版しました。なぜ武藤さんはエリートの道を捨ててまでも、^{ひさいち}被災地での^{ざいたくいりよう}在宅医療の道を選んだのでしょうか。大きな病院から見放された方々をいかに救うか、また、独りぼっちのお年寄りをどうサポートするか……。技術やデータだけでは分からない「人の痛み」に寄り添うために、そして、患者さんの^{しん}真の声を聞くために在宅医療の道を選ばれたのかもしれませんが。超高齢化社会と言われる今、日本の医療の在り方を問う一冊です。

季節は秋、スポーツに最適な季節です。しかし、スポーツを楽しむ時間は、なかなか見つからないものです。そこでお薦めするのがラジオ体操です。スポーツドクターの^{なかむらかくこ}中村格子さんの書かれた『^{あなど}実はスゴイ！大人のラジオ体操』を読めば、たかがラジオ体操などと侮れなくなります。昭和9年頃から国民に定着してきたラジオ体操は、^{こくみんほけんたいそう}国民保健体操として、国民の健康増進を願ってつくられた体操でした。ラジオ体操は、国民の健康のための、究極の全身運動だったのです。毎日ラジオ体操を続けることで、肩こりの解消や、二の腕が細くなったりという嬉しい結果も見られるそうです。健康な毎日を過ごすために、「ラジオ体操」を始めてみませんか。

次に、新着の児童書を紹介します。

来年は、童話作家・^{にいみなんきち}新美南吉の生誕100周年の年です。『^{ぎつね}ごん狐』や『牛をつないだ^{つばき}椿の木』など、お読みになった方も多いことでしょう。今日は、その中から『^{たくさん}がちょうのたんじょうび』という作品を紹介します。あるお百姓さんの家の裏庭には、^{たくさん}沢山の動物たちが住んでいました。アヒルにガチョウ、モルモットにウサギ、イタチもいます。ある日のことです。アヒルたちが、何やら話し合いをしています。その話の内容は、ガチョウの誕生会にイタチを招待するかどうか……。ということのようです。イタチは「おなら」の名人です。お祝いの席で「おなら」をされたら大変ですからね。さてさて、イタチは誕

生会に招待されるのでしょうか。新美南吉のユーモアと優しさが伝わってくるお話です。ご家族でお楽しみください。

最後に沖縄の産業に関する本を紹介しましょう。

しょうぐちやすひろ 将口泰浩さんの『沖縄地域産業の未来』は、じみち地道な挑戦を積み上げてきた沖縄の地域産業の「今」、そして「未来」について書かれたものです。しょうしこうれいか少子高齢化の現在でも、沖縄県は、人口 および ひとり当たりの所得が増加傾向にあります。地理的に東アジアの中心に位置する沖縄は、豊かな自然資源を活用し、新たな可能性を見いだしてきました。地域の特性を最大限に活用し、ますます伸びゆく沖縄の地域産業は、私たち奄美の産業のこれからにも、おお大いに参考になるのではないのでしょうか。奄美のこれからを担う方々に読んでいただきたい一冊です。

秋は読書に最適な季節です。読書で静かなひとときをお過ごしください。

かごしまけんりつあまみとしよかん 鹿児島県立奄美図書館でした。